

原著論文

東京 2020 大会へのボランティア参加動機  
— Olympic Volunteer Motivation Scale を使用して —<sup>1</sup>

清 宮 孝 文（静岡産業大学スポーツ科学部）<sup>2</sup>

依 田 充 代（日本体育大学スポーツマネジメント学部／体育スポーツ科学系）<sup>3</sup>

齋 藤 雅 英（日本体育大学スポーツ文化学部／教育福祉系）<sup>4</sup>

兼 元 亮（日本体育大学）<sup>5</sup>

Abstract

This study aimed to clarify, via the use of the Olympic Volunteer Motivation Scale (OVMS), the motivations of volunteers who participated in the Tokyo 2020 Games. A survey was conducted of all students of the Nippon Sport Science University. Of the 7,508 students who responded, 453 indicated that they had participated in voluntary activities for the Tokyo 2020 Games. Of these, 392 were selected for analysis, after elimination for non-response or incorrect response survey forms. The 18 items of the OVMS by Chrysostomos et al. (2008) were used as the survey items.

Survey results revealed that the most influential factor in volunteer participation was “To be involved in the Olympics.” This was followed, with a high percentage, by “For memories that will last a lifetime.” From these results, the survey clarified that many students considered volunteering for the Olympics to be a special opportunity, and participated because the Summer Olympics is an international festival organized once every four years, and the Games were held in their country.

A comparison of attributes revealed that there were differences between male and female students in their motivations for participating in Olympic volunteer activities. By current year of enrollment, Second (2nd) and Third (3rd) year university students indicated that they wanted to use their Tokyo 2020 Games volunteer experience in their post-graduation search for employment.

---

<sup>1</sup> Motivation for volunteer participation in the Tokyo 2020 Games—Using the Olympic Volunteer Motivation Scale—

<sup>2</sup> Kiyomiya Takafumi, Shizuoka Sangyo University

<sup>3</sup> Yoda Mitsuyo, Faculty of Sport Management

<sup>4</sup> Saito Masahide, Faculty of Sport Culture

<sup>5</sup> Kanemoto Ryo, Nippon Sport Science University

## 抄録

本研究は東京 2020 大会に参加したボランティアの参加動機を「OVMS」によって明らかにすることを目的とした。調査は、日本体育大学の全学生を対象に実施し、回答があった 7,508 名の中で東京 2020 大会のボランティアに参加したと回答があった 453 名を調査対象者とした。また、そのうち無回答や誤答がなかった 392 名を分析対象者とした。調査項目には、Chrysostomos et al. (2008) の「OVMS」18 項目を使用した。

調査の結果、ボランティア参加に最も影響を与えていたのは、「オリンピックに関わりたいため」であることが明らかになった。次いで、「一生続く思い出のため」が高い値を示した。これらの結果から、夏季オリンピックは 4 年に一度の国際的な祭典であり、それが自国開催になったことから、多くの学生がオリンピックのボランティアを特別視して、参加していたことが本調査により明らかになった。

属性比較では、男性と女性でオリンピックボランティアへの参加動機に差異があることが示された。また、学年別にみると 2・3 年生が東京 2020 大会のボランティア経験を就職に活かしたいという意思を持っていることが示された。

Keywords: Olympic, sports volunteers, internet surveys, Olympic Volunteer Motivation Scale

キーワード：オリンピック、スポーツボランティア、インターネット調査、オリンピックボランティアの参加動機

## 1. 緒言

2021 年、1 年延期となったオリンピック・パラリンピックが東京（以下、東京 2020 大会）で開催された。東京 2020 大会は、無観客開催となったが、多くのボランティアによって支えられる大会となった。ボランティアの募集に際し、スポーツ庁（2018）は「平成 32 年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法及び平成 31 年ラグビーワールドカップ大会特別措置法の一部を改正する法律による国民の祝日に関する法律の特例措置等を踏まえた対応について」を全国の大学長および高等専門学校長に通知し、大学生や専門学校生が東京 2020 大会のボランティア活動に参加しやすいように準備を行ってきた。

現在、スポーツイベントを開催するにあたって、

ボランティアは重要な人的資源となっており、ボランティアマネジメントに関する研究が広く行われている。特に、ボランティアへの参加動機に関する研究が多く（松本, 1999；松岡・小笠原, 2002；田引, 2008；内藤, 2009；松永, 2012；小玉ほか, 2016）、例えば、松永（2012）はマラソン大会への参加動機として「社交」、「能力向上」、「地域（京都）貢献」、「マラソン（スポーツ）」、「特典」の 5 因子を抽出している。また、田引（2008）は障害者スポーツ大会への参加動機として、「社会貢献」、「スポーツ」、「自己成長」、「個人的興味」、「参加者支援」、「報酬」、「依頼」の 7 因子を抽出している。このように参加者の動機を明らかにし、今後のスポーツ活動における人的資源の確保に寄与する研究が多く存在する。

オリンピックにおいても効果的なボランティアの募集をサポートするため、ボランティアの参加

動機を調査した研究が存在する。Chrysostomos et al. (2008) は、Olympic Volunteer Motivation Scale (以下、OVMS) を作成し、その尺度の妥当性および信頼性を示した。OVMS は、3 因子 18 項目で構成されており、第 1 因子は「Olympic related」、第 2 因子は「Egoistic」、第 3 因子は「Purposive」と命名されている。結果的に、この研究では、オリンピックボランティアへの参加動機としての主要因はオリンピック関連の動機であり、ボランティア参加者はオリンピック自体に参加することやオリンピック選手と会いたいという願望を持っていることが明らかになった。

この Chrysostomos et al. (2008) の OVMS について、Mateusz, R. et al (2021) はオリンピックボランティアの参加動機を測る唯一の尺度と評価し、2023 年にポーランドで開催される European Games のボランティア登録者を対象に調査を行っている。その結果、第 1 因子の「Olympic related」の項目が参加動機に関係していることを明らかにした。

このように、オリンピックなどの特別な大会では、他のスポーツイベントへのボランティア参加動機と異なることが予想され、Farrell et al. (1998) はエリートスポーツ大会などの特別なイベントのボランティアの動機を理解することはボランティア基盤の維持に寄与する可能性があるとしている。

しかし、日本国内のオリンピックに関するボランティア研究の蓄積は非常に少なくなっている。その中でも新出ら (1998) は 1998 年に開催された長野オリンピックに参加したボランティアを対象にイメージ調査を行った。結果的に、長野オリンピックに参加したボランティアは、ボランティア活動に対して「心的報酬」、「生活価値」、「心的条件」、「行動条件」、「社会貢献」、「自己批判」のイメージを有していることが明らかになった。一方で、Chrysostomos et al. (2008) の研究のようにオリンピック固有の項目は抽出されていない。

また、日本の若年層は諸外国と比較して、ボラ

ンティアに対して興味がない傾向があり、内閣府 (2019) が 13 歳から 29 歳を対象に実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 (平成 30 年度)」によると、ボランティア活動に興味があると回答した割合は、アメリカ (65.4%)、イギリス (52.7%)、韓国 (52.6%)、フランス (51.7%)、ドイツ (49.6%)、スウェーデン (45.8%)、日本 (33.3%) となっている。同様に、内閣府 (2009) が 18 歳から 24 歳を対象に実施した「第 8 回世界青年意識調査」(2009 年) によると、ボランティアについて、「現在、活動している」と回答した者の割合は、アメリカ (17.6%)、韓国 (8.2%)、イギリス (7.0%)、フランス (6.3%)、日本 (5.6%) となっている。このように日本は諸外国と比べて、ボランティアに対して興味がなく、また活動もしていない傾向が示されている。

以上のように、オリンピックボランティアの参加動機の把握は、今後のボランティア基盤の確立のために必要であるが、日本人を対象としたオリンピックボランティアへの参加動機研究は非常に蓄積が少なく、さらに日本人の中でも若年層が諸外国と比べてボランティアへの興味が少ないことが明らかになっている。松永 (2012) が「熱意のある自発的なスポーツボランティアを効率よく集め、ボランティアの動機に合った形で、適材適所にボランティアを配置し、有効に活用するためのしくみづくりは、成果を生み出す運営上、非常に重要である」と述べているように、オリンピックのボランティアに対しても参加動機を調査し、今後のボランティア募集に寄与する研究が必要と考える。

そこで、本研究は東京 2020 大会にボランティアとして参加した大学生の参加動機を OVMS によって明らかにすることを目的とした。また、本研究では今後のボランティアマネジメントのためにも適材適所の考えに基づき、属性によるボランティア動機の差異にも着目した。

## 2. 研究方法

### 2.1 調査対象者および調査時期

本調査は、2021年9月～10月にかけて、日本体育大学の全学生を対象にインターネット調査で実施した。その結果、7,508名から回答があり、東京2020大会のオリンピックボランティア（大会ボランティア）に参加したと回答した学生は453名であった。その中から、回答漏れ等がなかった392名（有効回答率：86.5%）を分析対象者とした。

日本体育大学の学生を対象にした理由としては、日本最大規模の体育・スポーツ系の大学であり、将来スポーツ分野で活躍する可能性がある学生が多く在籍していることから、今後の「支える」スポーツの基盤を確立するにあたり、本研究目的を遂行するために適切な調査対象者と考えたからである。

### 2.2 調査項目

調査項目は、Chrysostomos et al. (2008) のOVMSを用いた（表1）。Chrysostomos et al. (2008) は、OVMS作成にあたり、主成分分析の後、

Kaiser-Meyer-Olkin（以下、KMO）の標本妥当性およびBartlettの球面性検定を実施している。KMOの標本妥当性では、サンプル妥当性尺度が0.81となり、Bartlettの球面性検定では仮説が否定され因子モデルが適切であることが示され、いずれも基準値を満たし、尺度の妥当性が確認された。次に、クロンバックのアルファ係数を算出し、第一因子「Olympic related」は0.82、第2因子「Egoistic」は0.82、第3因子「Purposive」は0.77と全ての因子で基準値を満たし、尺度の信頼性が確認された。したがって、OVMSは妥当性および信頼性が確認されていることから、本研究で使用することにした。また、調査を実施するにあたり、OVMSの日本語翻訳を行った。翻訳は、アメリカの大学教員（心理学専門）1名とスポーツ社会学を専門とする教授1名、心理学を専門とする准教授1名、スポーツ社会学を専門とする講師1名の計4名で繰り返し協議して行った。

OVMS18項目に対して、5段階リッカート尺度（5：「非常にあてはまる」、4：「ややあてはまる」、3：「どちらでもない」、2：「あまりあてはまらない」、1：「全くあてはまらない」）で調査対象者に回答を求めた。

表1 OVMS（日本語翻訳）

因子	質問項目
【オリンピック関連】 6項目	オリンピックへの情熱があるから オリンピックに関わりたいため オリンピックイベントに参加するため トップアスリートと会う機会のため 一生続く思い出のため オリンピックでボランティアになることは名誉あると見なされるから
【利己的】 5項目	仕事のコネクションを作るため 就職につながる可能性のある実務経験を積むため 同じ分野の専門家とのコネクションを作る機会のため 新しいスキルを学ぶため 物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）
【目的】 7項目	ボランティア精神をサポートするため 市民としての責任のある関与 オリンピック精神に祀られている連帯と平和の精神 自国を支援するため 家族にボランティアをする伝統があるため 国家の誇りのため 他の人やコミュニティを助けるため

### 東京2020オリパラ競技大会に関するアンケート

本学学生のボランティアやアルバイトでの最終的な参加状況を確認します。

また、該当の学生（ボランティアやアルバイトを行った学生）は下記の「東京2020大会への参加動機」を伺う質問項目に回答して下さい。

このアンケートは調査目的で使用します。回答の内容で不利益を被ることはありません。（所要時間3分以内）

尚、調査協力の意思をもって、本調査への同意とさせていただきます。

設問1. ボランティア参加及びアルバイト状況を選択してください。（複数回答可）

- 大会ボランティアとして参加した
- 都市ボランティアとして参加した
- その他東京五輪大会に関係するボランティアに参加した
- 東京五輪大会に関係するアルバイトに参加した
- ボランティア及びアルバイトはしなかった

設問2. 参加したボランティアの参加理由について以下の質問にそれぞれ答えてください。

質問項目		非常に あてはまる	やや あてはまる	どちら でもない	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
1	他の人やコミュニティを助けるため	5	4	3	2	1
2	オリンピックに関わりたいため	5	4	3	2	1
3	仕事のコネクションを作るため	5	4	3	2	1
4	自国を支援するため	5	4	3	2	1
5	就職につながる可能性のある実務経験を積むため	5	4	3	2	1
6	家族にボランティアをする伝統があるため	5	4	3	2	1
7	同じ分野の専門家とのコネクションを作る機会のため	5	4	3	2	1
8	市民としての責任のある関与	5	4	3	2	1
9	トップアスリートと会う機会のため	5	4	3	2	1
10	オリンピックへの情熱があるから	5	4	3	2	1
11	オリンピックの精神にまつられている連帯と平和の精神	5	4	3	2	1
12	ボランティア精神をサポートするため	5	4	3	2	1
13	新しいスキルを学ぶため	5	4	3	2	1
14	一生続く思い出のため	5	4	3	2	1
15	国家の誇りのため	5	4	3	2	1
16	物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）	5	4	3	2	1
17	オリンピックイベントに参加するため	5	4	3	2	1
18	オリンピックでボランティアになることは名誉あると見なされるから	5	4	3	2	1

図1 アンケート項目

## 2.3 調査方法

本調査は日本体育大学の n-pass のシステムを使い、在籍する全ての学生に配信を行った。アンケート項目は、図1の通りとなっており、回答は任意とし、全問回答必須などの設定は行っていない。また、OVMSの項目の順番は因子順ではなく、Chrysostomos et al. (2008) が調査を実施した通りの順序とした。

## 2.4 分析方法

まず始めに、属性とOVMSの単純集計を行った。その後、OVMSに関しては、参加動機をより明確化するため、「5:非常にあてはまる」と「4:あてはまる」の%を合計（以下、「あてはまる」）し、

18項目で順位付けを行った。このように、項目を合計して記述する方法は、全般的な傾向や概要を明確化するための手法（例えば新谷・菊本[2020] やスポーツ庁 [2022]、笹川スポーツ財団 [2020] など<sup>注1)</sup>）であることから、本研究では大学生のオリンピックボランティアへの参加動機をより明確化するために「5」と「4」を合計して記述する方法を用いた。

次に、OVMSに対して属性の「性別」、「学年」において比較分析を実施した。荒井（2016）や松本（1999）の研究では、ボランティアの性差について、男性よりも女性の方が肯定的なイメージやポジティブな参加動機を持つことが明らかにされている。また、ボランティアの学年差については、

音成(2017)の研究で大学生は学年によってスポーツボランティア活動への参加経験や志向が異なることが示されている。以上の先行研究より、性差と学年差を本研究の比較対象とした。

分析は、「性別」ではt検定、「学年」では分散分析を使用した。分散分析に関しては、有意確率が0.05未満であった項目に対しては、その後の検定をBonferroni法で実施した。

尚、本研究の統計有意水準は5%未満とした。

## 2.5 倫理的配慮

調査対象者に対し、無記名によるアンケート調査のため、調査対象者に不利益が被らないことを提示した。また、調査目的に同意した者のみ、本調査に進むよう記述した。

本調査は日本体育大学倫理審査委員会の承認（承認番号：021-H136）を受けて行われた。

## 3. 結果

### 3.1 属性

表2は調査対象者の属性を示したものである。性別では「男性」59.3%、「女性」40.7%、学年では「1年生」5.5%、「2年生」30.2%、「3年生」34.1%、「4年生」26.5%、「留年生等」3.7%となった。

表2 属性

項目	度数	%
性別	男性	236 60.2
	女性	156 39.8
学年	1年生	18 4.6
	2年生	121 30.9
	3年生	136 34.7
	4年生	107 27.3
	留年生等	10 2.5

### 3.2 OVMSの単純集計

表3はOVMSの単純集計を示したものである。「5:非常にあてはまる」が最も高かった項目は、「オリンピックに関わりたいため」72.4%となり、次

表3 OVMSの単純集計結果

質問項目	1:全くあてはまらない		2:あまりあてはまらない		3:どちらでもない		4:ややあてはまる		5:非常にあてはまる	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
<b>【オリンピック関連の動機】</b>										
オリンピック・パラリンピックへの情熱があるから	14	3.6	21	5.4	86	21.9	93	23.7	178	45.4
オリンピック・パラリンピックに関わりたいため	1	0.3	9	2.3	34	8.7	64	16.3	284	72.4
オリンピック・パラリンピックイベントに参加するため	45	11.5	33	8.4	68	17.3	82	20.9	164	41.8
トップアスリートと会う機会のため	17	4.3	24	6.1	49	12.5	99	25.3	203	51.8
一生続く思い出のため	6	1.5	12	3.1	44	11.2	86	21.9	244	62.2
オリンピック・パラリンピックでボランティアになることは名誉あると見なされるから	63	16.1	40	10.2	123	31.4	66	16.8	100	25.5
<b>【利己的な動機】</b>										
仕事のコネクションを作るため	53	13.5	58	14.8	120	30.6	59	15.1	102	26.0
就職につながる可能性のある実務経験を積むため	48	12.2	50	12.8	101	25.8	80	20.4	113	28.8
同じ分野の専門家とのコネクションを作る機会のため	65	16.6	66	16.8	103	26.3	67	17.1	91	23.2
新しいスキルを学ぶため	14	3.6	21	5.4	75	19.1	114	29.1	168	42.9
物質的報酬のため(例:公式のボランティアユニフォームなど)	127	32.4	65	16.6	95	24.2	43	11.0	62	15.8
<b>【確固とした動機】</b>										
ボランティア精神をサポートするため	25	6.4	38	9.7	94	24.0	98	25.0	137	34.9
市民としての責任のある関与	79	20.2	50	12.8	116	29.6	70	17.9	77	19.6
オリンピック・パラリンピックの精神にまつられている連帯と平和の精神	31	7.9	35	8.9	117	29.8	86	21.9	123	31.4
自国を支援するため	25	6.4	28	7.1	86	21.9	95	24.2	158	40.3
家族にボランティアをする伝統があるため	198	50.5	59	15.1	73	18.6	19	4.8	43	11.0
国家の誇りのため	55	14.0	38	9.7	118	30.1	75	19.1	106	27.0
他の人やコミュニティを助けるため	10	2.6	13	3.3	86	21.9	100	25.5	183	46.7

表 4 OVMS の順位

順位	項目	%
1	オリンピック・パラリンピックに関わりたいため	88.7
2	一生続く思い出のため	84.1
3	トップアスリートと会う機会のため	77.1
4	他の人やコミュニティを助けるため	72.2
5	新しいスキルを学ぶため	72.0
6	オリンピック・パラリンピックへの情熱があるから	69.1
7	自国を支援するため	64.5
8	オリンピック・パラリンピックイベントに参加するため	62.7
9	ボランティア精神をサポートするため	59.9
10	オリンピック・パラリンピックの精神にまつられている連帯と平和の精神	53.3
11	就職につながる可能性のある実務経験を積むため	49.2
12	国家の誇りのため	46.1
13	オリンピック・パラリンピックでボランティアになることは名誉あると見なされるから	42.3
14	仕事のコネクションを作るため	41.1
15	同じ分野の専門家とのコネクションを作る機会のため	40.3
16	市民としての責任のある関与	37.5
17	物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）	26.8
18	家族にボランティアをする伝統があるため	15.8

※「非常にあてはまる」と「あてはまる」を合計した%を示している。

表 5 OVMS の性別比較

項目	男性		女性		t 値
	M	SD	M	SD	
【オリンピック関連の動機】					
オリンピックへの情熱があるから	3.93	0.08	4.16	0.97	2.05*
オリンピックに関わりたいため	4.55	0.05	4.64	0.67	1.25
オリンピックイベントに参加するため	3.64	0.09	3.87	1.30	1.59
トップアスリートと会う機会のため	4.11	0.08	4.18	1.00	0.56
一生続く思い出のため	4.32	0.07	4.53	0.76	2.29*
オリンピックでボランティアになることは名誉あると見なされるから	3.30	0.09	3.19	1.27	0.83
【利己的な動機】					
仕事のコネクションを作るため	3.25	0.09	3.26	1.25	0.13
就職につながる可能性のある実務経験を積むため	3.46	0.09	3.33	1.25	1.00
同じ分野の専門家とのコネクションを作る機会のため	3.17	0.09	3.09	1.29	0.54
新しいスキルを学ぶため	3.98	0.07	4.08	1.02	0.90
物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）	2.74	0.10	2.42	1.34	2.25*
【確固とした動機】					
ボランティア精神をサポートするため	3.70	0.08	3.76	1.14	0.51
市民としての責任のある関与	3.04	0.09	3.04	1.31	0.05
オリンピックの精神にまつられている連帯と平和の精神	3.58	0.08	3.63	1.20	0.37
自国を支援するため	3.78	0.08	3.96	1.09	1.46
家族にボランティアをする伝統があるため	2.13	0.09	2.08	1.33	0.36
国家の誇りのため	3.31	0.09	3.43	1.22	0.92
他の人やコミュニティを助けるため	4.11	0.07	4.10	0.96	0.13

\*\*p<0.01,\*p<0.05, M=平均値, SD=標準偏差

いで「一生続く思い出のため」62.2%となった。一方で、「1:全くあてはまらない」が最も高くなった項目は、「家族にボランティアをする伝統があるため」50.5%であった。

### 3.3 OVMS の順位付け

表 4 は OVMS の順位付けを示したものである。「5:非常にあてはまる」と「4:あてはまる」の%を合計し、順位付けした結果、「オリンピック・パラリンピックに関わりたいため」が88.7%と最も高い値を示した。次いで、「一生続く思い出のため」が84.1%と高い値を示した。一方、「家族

表6 OVMSの学年比較

項目	1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		F 値	多重比較
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
【オリンピック関連の動機】										
オリンピック・パラリンピックへの情熱があるから	4.22	0.94	4.08	1.13	4.01	1.10	3.97	1.09	0.40	
オリンピック・パラリンピックに関わりたいため	4.56	0.86	4.60	0.76	4.52	0.83	4.65	0.65	0.64	
オリンピック・パラリンピックイベントに参加するため	4.00	1.37	3.71	1.36	3.71	1.40	3.72	1.39	0.24	
トップアスリートと会う機会のため	4.06	1.11	4.32	1.04	4.07	1.12	4.19	1.07	1.28	
一生続く思い出のため	4.39	1.04	4.36	0.96	4.46	0.88	4.44	0.85	0.30	
オリンピック・パラリンピックでボランティアになることは名誉あると見なされるから	3.17	1.43	3.36	1.39	3.24	1.35	3.21	1.37	0.29	
【利己的な動機】										
仕事のコネクションを作るため	3.00	1.37	3.44	1.34	3.37	1.28	3.02	1.41	2.37	
就職につながる可能性のある実務経験を積むため	2.67	1.65	3.63	1.27	3.57	1.25	3.18	1.41	4.75**	1<2,3
同じ分野の専門家とのコネクションを作る機会のため	2.78	1.40	3.27	1.35	3.23	1.37	2.98	1.44	1.42	
新しいスキルを学ぶため	4.00	0.91	4.03	1.11	4.08	1.08	3.97	1.07	0.21	
物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）	2.17	1.43	2.70	1.46	2.68	1.43	2.54	1.43	0.92	
【確固とした動機】										
ボランティア精神をサポートするため	3.56	1.20	3.88	1.23	3.85	1.15	3.46	1.26	3.01*	4<2
市民としての責任のある関与	3.06	1.21	3.15	1.45	3.05	1.32	2.91	1.43	0.58	
オリンピック・パラリンピックの精神にまつられている連帯と平和の精神	3.50	1.15	3.76	1.31	3.64	1.15	3.42	1.25	1.52	
自国を支援するため	3.72	1.18	3.98	1.23	3.85	1.14	3.77	1.31	0.65	
家族にボランティアをする伝統があるため	1.67	1.24	2.33	1.51	2.18	1.32	1.90	1.25	2.66	
国家の誇りのため	3.11	1.32	3.50	1.41	3.42	1.26	3.23	1.37	1.00	
他の人やコミュニティを助けるため	4.17	1.15	4.13	1.08	4.07	1.00	4.09	1.00	0.10	

\*\* $p<0.01$ , \* $p<0.05$ , M = 平均値, SD = 標準偏差

にボランティアをする伝統があるため」は15.8%と最も低い値を示した。

### 3.4 OVMSの性別比較

表5はOVMSの性別比較を示したものである。「オリンピックへの情熱があるから」では、「女性」の方が「男性」よりも有意に高い値を示した( $t=2.05$ ,  $df=390$ ,  $p<0.05$ )。「一生続く思い出のため」でも、「女性」の方が「男性」よりも有意に高い値を示した( $t=2.29$ ,  $df=382$ ,  $p<0.05$ )。「物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）」では、「男性」の方が「女性」よ

りも有意に高い値を示した( $t=2.74$ ,  $df=355$ ,  $p<0.05$ )。

### 3.5 OVMSの学年比較

表6はOVMSの学年比較を示したものである。「就職につながる可能性のある実務経験を積むため」と「ボランティア精神をサポートするため」の項目の有意確率が0.05未満であったため、多重比較に進んだ。「就職につながる可能性のある実務経験を積むため」では「2年生」と「3年生」の方が「1年生」よりも有意に高い値を示した。「ボランティア精神をサポートするため」では、「2

年生」の方が「4 年生」よりも高い値を示した。

#### 4. 考察

本研究の目的は、Chrysostomos et al. (2008) の OVMS を用いて、東京 2020 大会に参加したボランティアの参加動機を明らかにすることであった。

OVMS でボランティアへの参加動機を測ったところ、「オリンピックに関わりたいため」が最も高いことが明らかになった。Chrysostomos et al. (2008) と Mateusz, R et al (2021) の研究においても、同様の結果が出ており、オリンピックに参加するボランティアは共通して、オリンピックへの関与が動機になっていることが示された。

これまでのスポーツボランティアへの参加動機研究では、「参加者支援」因子（松本, 1999）や「地域貢献」（内藤, 2009）などの因子が抽出されていたが、スポーツイベントへの関与が参加動機になっている因子は確認できていない。また、大学生のスポーツボランティアに対するイメージを明らかにした研究（清宮ら, 2021）においても、「社会貢献」、「自己への恩恵」、「スポーツ技能の活用」、「スポーツ選手」、「所属先参加」、「仕事技能の習得」の 6 因子となり、スポーツイベントへの関与のイメージを持った因子は抽出されなかった。したがって、オリンピックのボランティアは、特殊性があると推察する。

順位付けでは、その他にも「一生続く思い出のため」や「トップアスリートと会う機会のため」、「他の人やコミュニティを助けるため」の参加動機が高くなった。一方で、「物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）」という項目は 27.2%と低い結果となった。大学生を対象にスポーツボランティアへの参加動機の調査を行った小玉ら（2016）の研究では、「報酬」因子が抽出されている。また、体育系大学のスポーツボランティアに対する認識を明らかにした清宮ら（2020）の研究においても、「報酬」因子が抽出さ

れている。つまり、今回、東京 2020 大会にボランティアとして参加した大学生は、他のスポーツボランティア活動と比べて、参加自体に価値を感じていたことが示唆される。

次に、OVMS の各項目に対して、属性比較を行った結果、一部の項目において、属性間に有意な差が確認された。性別では、女性の方が男性よりも「オリンピックへの情熱があるから」と「一生続く思い出のため」の項目が有意に高くなった。男性は女性よりも「物質的報酬のため（例：公式のボランティアユニフォームなど）」の項目が高くなった。先行研究では、男性よりも女性の方がボランティアに対してポジティブなイメージを持っていることが報告されている（荒井, 2016）。その他にも清宮ら（2021）は男性よりも女性の方がスポーツボランティアに対して自発的や互酬的なイメージを抱くことを明らかにしている。さらにスポーツボランティアの参加動機を類型化した松本（1999）は女性よりも男性の方が「他律対価型」に多く属している結果となったことを示している。このように先行研究では、ボランティアへの参加に関して男女差があることが示されており、また男性は女性よりも他律的かつ対価を求める傾向にあることが報告されている。先行研究で明らかになっているボランティアの性別差に関しては、オリンピックのボランティアでも同様の傾向が示されていた。

OVMS の学年比較では、1 年生よりも 2・3 年生の方が「就職につながる可能性のある実務経験を積むため」の項目で有意に高い値を示した。この結果について、1 年生は東京 2020 大会の開催時期には、入学から間もないこともあり、就職活動に対して意識が低いと考えられる。反対に 2・3 年生は就職活動が近づくにあたり、就職活動への意識が高くなったと推察する。近年は、ボランティアをキャリアに活かそうとする議論もあり、例えば、リクルートワークス（2018）は「東京 2020 大会によってボランティアは、『自発的に取り組む』という本来の意味に立ち返りつつ、ライ

フキャリアを豊かにする開かれた機会へと位置づけを変えていこう」と予想している。実際に、就職活動などではボランティア経験等を聞かれる場面もあることから、そのような認識が今回の調査結果に影響したと考える。次に、「ボランティア精神をサポートするため」の項目では、2年生の方が4年生よりも有意に高くなった。つまり、今回の参加者の中では、4年生よりも2年生の方が、ボランティア精神を念頭に東京2020大会に参加していたことが示された。本研究では、学年差が確認できた項目は2項目であったが、他の先行研究（清宮ら、2020）ではスポーツボランティア関連での学年差が確認されていないため、就職に関する項目で学年差が確認できたことは意義がある結果だと考える。今後、継続してキャリアとボランティアに対する意識について、追加調査を行っていききたい。

## 5. まとめ

本研究では、OVMSを使用し、大学生の東京2020大会へのボランティア参加動機が明らかになった。特に、ボランティア参加に影響を与えていたのは、オリンピックへの関与であり、次いで、一生続く思い出にしたいという願望であった。夏季オリンピックは4年に一度の国際的な祭典であり、それが自国開催になったことから、多くの学生がオリンピックのボランティアを特別視して、参加していたことが本調査により明らかになった。

属性では、男性の方が女性よりも物質的な報酬を参加動機としている傾向が見られた。また、学年別にみると2・3年生が他の学年よりも東京2020大会のボランティア経験を就職に活かしたいという意思を持っていることが示された。

## 6. 今後の課題

今回の調査から、オリンピックボランティアは

他のスポーツイベント等のボランティアと参加動機が異なる性質を持っていることが示されたが、なぜこのような差が生じたのかまでは検証できていないため、今後差異が生じた要因を検証していきたい。

また、オリンピックボランティアへの参加が大学生のボランティア観にどのような影響を及ぼすのかについての検討やボランティア経験とライフキャリアの関わりなど、東京2020大会の無形のレガシーについて、幅広く追加調査していききたい。

注）新谷・菊本（2020）の研究では、調査対象者の利益相反マネジメントに対する知識を明確化するため、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合計して、調査結果をまとめている。また、スポーツ庁（2022）の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」では、例えば「現在の健康状態」についての設問で、回答の「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合計し、「健康である」と表記している。次に、笹川スポーツ財団（2020）の「スポーツライフ・データ2020」では、スポーツボランティアに関する調査結果において、スポーツボランティアの実施希望率を「ぜひ行いたい」と「できれば行いたい」を合計した数値で算出している。

## 7. 引用参考文献

- 荒井俊行（2016）大学生のボランティア活動へのイメージが参加志向動機・不参加志向動機に及ぼす影響。日本教育工学会論文誌，40(2)：85-94.
- Farrell, J. M., Johnston, M. E., & Twynam, D. G. (1998) Volunteer motivation, satisfaction, and management at an elite sporting competition. *Journal of Sport Management*, 12：288-300.
- Giannoulakis, Chrysostomos; Wang, Chien-Hsin; Gray, Dianna (2008) Measuring Volun-

teer Motivation in Mega-Sporting Events. Event Management, 11(4) : 191-200.

清宮孝文・門屋貴久・依田充代・阿部征大(2020) スポーツボランティアに対する認識と参加意欲の関係性：体育系大学生に着目して．運動とスポーツの科学, 26(1) : 1-14.

清宮孝文・依田充代・門屋貴久・阿部征大(2021) 体育系大学生のスポーツボランティアに対するイメージの類型化：スポーツボランティア活動に「意欲的な学生」と「意欲的ではない学生」の特徴に着目して．日本体育大学紀要, 50 : 1019-1029.

小玉京士郎・早田剛・相澤徹・河合洋二郎・村重良一(2016) 障がい者スポーツボランティアに対する意識調査．環太平洋大学研究紀要, 10 : 237-242.

Mateusz,Rozmiarek;Joanna,Poczta;Ewa,Malchrowicz-Mosko (2021) Motivations of Sports Volunteers at the 2023 European Games in Poland. Sustainability, 13 : 1-14.

松本耕二(1999) スポーツ・ボランティアの類型化に関する研究－障害者スポーツイベントのボランティアに着目して－．山口県立大学社会福祉学部紀要, 5 : 11-19.

松永敬子(2012)「京都マラソン 2012」におけるボランティア参加者の動機に関する研究－自発的参加と非自発的参加との比較－．龍谷大学経営学論集, 52 (2・3) : 55-63.

松岡宏高・小笠原悦子(2002) 非営利スポーツ組織を支えるボランティアの動機 (特集スポーツ・ボランティア). 体育の科学, 52(4) : 277-284.

内閣府(2009) 第 8 回世界青年意識調査, <https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth8/html/2-4-3.html#1> (参照日 : 2022 年 6 月 13 日)

内閣府(2019) 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 (平成 30 年度), [https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishi-](https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishi-ki/h30/pdf-index.html)

[ki/h30/pdf-index.html](https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishi-ki/h30/pdf-index.html) (参照日 : 2022 年 6 月 13 日)

内藤正和(2009) 地域のスポーツイベントにおけるボランティア活動に関する研究－依頼型のボランティアに着目して－．愛知学院大学心身科学部紀要, 5 : 7-15.

音成陽子(2017) 大学生のスポーツ・ボランティアのあり方．流通科学研究, 17 (1) : 25-28.

リクルートワークス研究所(2018) 東京 2020 大会のボランティア・レガシー, [https://www.works-i.com/research/works-report/item/180201\\_legacy2020.pdf](https://www.works-i.com/research/works-report/item/180201_legacy2020.pdf), (参照日 2022 年 6 月 13 日)

笹川スポーツ財団(2018) スポーツボランティアに関する調査 2019, 調査・研究, [https://www.ssf.or.jp/thinktank/volunteer/2019\\_report\\_all.html](https://www.ssf.or.jp/thinktank/volunteer/2019_report_all.html), (参照日 2022 年 6 月 13 日).

笹川スポーツ財団(2020) スポーツライフ・データ 2020—スポーツライフに関する調査報告書一．笹川スポーツ財団, 東京 : 78.

新出昌明, 齋藤隆志, 川崎登志喜(1998) 長野オリンピックにおけるボランティアのイメージ分析—スポーツ経営学的視点から—．東海大学紀要体育学部, 28 : 21-30.

新谷由紀子・菊本虔(2020) 大学における利益相反に関する医学系と医学系以外の教員の意識調査についての一考察．文理シナジー, 24 (1) : 5-20.

スポーツ庁(2018) 平成 32 年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法及び平成 31 年ラグビーワールドカップ大会特別措置法の一部を改正する法律による国民の祝日に関する法律の特例措置等を踏まえた対応について (通知), 平成 30 年度 告示・通達, [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/hakusho/1407708.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/hakusho/1407708.htm), (参照日 2022 年 6 月 13 日).

スポーツ庁(2022) 令和 3 年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」,

[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/toukei/chousa04/sports/1415963\\_00006.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1415963_00006.htm),

(参照日 2022 年 6 月 13 日)

田引俊和 (2008) 障害者スポーツを支えるポ

ランティアの参加動機に関する研究. 医療福祉研究, 4 : 98-107.

(受理日 2022 年 6 月 30 日)